

きのくに自主防災

<発行元>

第23号 (平成30年8月号)

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局 (和歌山県庁防災企画課内)

「和歌山県防災ナビ」アプリを配信中！

南海トラフ地震などの大規模災害時の的確な避難を促進するため、防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」を5月29日から配信しています。

●アプリの主な機能

災害時の避難に役立つ避難先検索や防災情報のプッシュ通知などの機能がありますので、ぜひご活用ください！



(1) 避難先検索

- ・災害発生時に安全に避難するための避難場所を簡単に検索できます。
- ・避難場所の安全レベルも確認でき、最短ルートを地図上に表示します。
- ・避難途中でルートを離れた場合も現在地を常に表示して、正しいルートに誘導します。
- ・土地勘のない場所でも的確に避難できるよう、避難場所等の方向を地図情報とカメラで確認できます。(AR(拡張現実)を活用)

(2) 防災情報のプッシュ通知

- ・事前の登録なしで、気象警報・注意報や避難勧告等の防災情報がプッシュ型で届きます。
- ・さらに、一時避難場所から別の市町村に移動しても、その市町村に発令されている避難勧告等の情報がプッシュ型で届きます。

(3) 家族等が避難した場所の確認

- ・家族等でグループ登録すれば、てんでんこに避難した登録者の居場所を地図上で確認できます。
- ・避難カードの作成・共有ができます。

(4) 避難トレーニング

- ・自宅等から避難場所まで実際に避難のトレーニングをすることで、その避難経路や要した時間が記録できます。
- ・さらに、トレーニング記録に南海トラフ巨大地震の津波の到達時間等の想定を重ねることで避難行動の安全性を確認できます。



無料でご利用いただけます。

(アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は利用者のご負担となります。)



iOS9以降



Android4.4 以降



QRコード

毎年6月1日は『自主防災組織の活動の日』です！

災害発生時において、自主防災組織による「共助」は、災害から命を守るために重要な役割を果たします。

県自主防災組織情報連絡会では、県民の防災意識を高め自主防災組織の結成・活動促進を図るため、平成28年度から毎年6月1日を「自主防災組織の活動の日」、活動日の前後1週間（5月26日～6月8日）を集中活動期間と設定しています。

今年度は、22市町99団体（うち集中活動期間中は10市町34団体）が訓練等を行いました！

ここでは、6月2日に美浜町松原地区高台で実施された、浜ノ瀬区、田井畑区、新浜区の自主防災組織の合同防災訓練の様子を紹介します。

●避難訓練

大地震の発生により津波が押し寄せてくるとの想定で、午前10時に防災訓練放送が流されました。放送を聞いた周辺住民は、避難場所となっている松原地区高台まで避難し、放送から20分後には約500人が集まりました。

高台では、各地区の自主防災組織により、事前に作成している名簿を活用しながら避難者の確認が行われました。

また、今回の避難訓練では、和歌山県が配信しているスマートフォン用アプリ「和歌山県防災ナビ」の「避難トレーニング機能」※を利用している住民の方々もいました。

※1ページ参照

●炊き出し訓練

避難訓練終了後には、「かまどベンチ」を使用した炊き出し訓練が行われました。「かまどベンチ」とは、普段はベンチとして利用し、災害時には腰掛け部分を取り外すことでかまどとして利用できるものです。訓練では、自主防災組織が中心となり、「かまどベンチ」の使用方法を確認しながら、アルファ化米などの備蓄食料の炊き出しが行われました。

訓練を行う意義～自主防災組織の声～

○過去の震災から時間が経つと防災意識の低下が危惧されます。訓練が、大きな地震があったら本能的にこの高台に避難するきっかけになればと思います。

○今までは避難訓練だけでしたが、初めて炊き出し訓練も行いました。かまどベンチを実際に組み立ててみて良い経験になりました。また、3地区合同で訓練を行うことで、他の地区の訓練の様子を学べて良かったです。



訓練前に「和歌山県防災ナビ」で避難トレーニング機能を設定



名簿を活用しながら避難者を確認



組立後のかまどベンチ

平成 29 年度和歌山県自主防災組織情報連絡会 情報交流会で

発表された各自主防災組織の活動事例を紹介します！

和歌山県自主防災組織情報連絡会 情報交流会とは？

南海トラフ地震・津波や風水害・土砂災害等の大規模災害に備え、地域の防災活動のさらなる活性化を図るため、和歌山県自主防災組織情報連絡会による情報交流会を平成 17 年度から開催しています。当会では、県内自主防災組織の取組についての様々な情報を共有し、地域の防災活動に役立てていただけるよう、先進的な取組を行っている自主防災組織の代表者の方による事例発表やパネルディスカッション等を実施しています。

平成 29 年度は、平成 30 年 2 月 18 日（日）に御坊商工会館で開催し、自主防災組織 3 団体から事例発表をしていただきました。

- ・御坊市 南塩屋区自主防災会
- ・由良町 小引区自主防災会
- ・美浜町 浜ノ瀬区自主防災会

また、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター主任研究員の本塚智貴氏（当時）がコーディネーターとなり、活動事例発表者とパネルディスカッションを行いました。ここでは、当日の活動事例発表の一部を紹介します。

○事例発表

「災害に強い地域づくりを 目指して」

御坊市 みなみしおや 南塩屋区自主防災会

南塩屋区自主防災会の概要

南塩屋区は、広い地域が南海トラフ地震の津波浸水想定区域であり、住民の防災意識が高く、御坊市内で 2 番目に自主防災組織を結成しました。

避難場所を兼ねた里山づくり

南海トラフ巨大地震で想定されている最大津波高 16m に対応する避難場所として、観音山（かんのんやま）を整備しています。海拔表示板やソーラーLED 照明灯を設置した他、雑木を伐採し避難路の整備を行いました。

避難場所として観音山を整備する中で、「こんな高いところまで避難するの？」という声がありました。そ



観音山を避難場所として整備

こで、「避難場所」としてだけでなく、日常的に住民が足を運ぶような「憩いの場」としても観音山を整備する活動を始めました。平成 29 年度には、子どもクラブの児童たちと一緒に植樹やベンチ製作を行いました。

最後に

子どもたちや年配者など、幅広い年齢層の住民と一緒に「災害に強い地域づくり」に取り組み、防災をきっかけとして地域の絆をより深めることができています。

「小さい集落の防災活動 ～みんなでたすけ合う手作りの活動～」

由良町 ^{こびき} 小引区自主防災会

小引区自主防災会の概要

小引区は、人口約 120 人、世帯数 45 戸の町内では 1 番小さな集落です。自主防災組織は、調達班、救護班、消火・救出班から構成されています。

防災活動を通して大学生と交流

由良町と摂南大学は「大学のふるさと協定」の調印を行い、地域活性化のための様々な取組を行っています。その一環として、小引区

の自主防災活動を大学生に説明することになりました。備蓄などに関する質



防災を通じて大学生と交流

問があり、防災倉庫に加えて、海拔が高いところにある空き家を活用して衣類等を備蓄していると説明し、実際に見てもらいました。大学生との交流は、防災活動を見直すきっかけになりました。

集落の住民の7割が参加する避難訓練

避難訓練では、集落の避難場所となっているお寺に7割の住民が避難しました。避難訓練後には、調達班を中心に炊き出しを行い、電気・水道が使用できない想定で、飲料水に適した集落内の井戸水を使用して避難食を作りました。また、訓練に参加できなかった住民についても、班長による戸別訪問や回覧板により、訓練の活動内容を共有しています。

最後に

自分の身を守り、ふるさとの安全を想い、訓練を少しでも活かした行動を取ることが重要です。自治会活動などに全員参加して、「ふるさとを大切に想い、地域の連帯感を強くする」ふるさと意識を高めることが防災意識の向上につながると考えています。

「津波避難に対して 日頃からできること」

美浜町 ^{はまのせ} 浜ノ瀬区自主防災会

浜ノ瀬区自主防災会の概要

浜ノ瀬区は、太平洋と日高川に囲まれた地域で、南海トラフ巨大地震が発生した際は、全ての地域が津波により浸水すると想定されています。自主防災組織は、平成 16 年に結成され、訓練等の様々な防災に関する取り組みを実施しています。

区独自の夜間訓練

夜間訓練を実施する際には、家の戸締まりや火の始末に気を付けており、防災委員や消防団員が区内を巡回しています。避



夜間の避難訓練

難後には、事前に作成している安否確認表により、住民の安否確認をしています。

また、避難路には、自主防災組織が設置した約 250 個の避難誘導板があり、夜間訓練の際にはとても役立ちました。他にも、避難路には LED 避難誘導灯が設置されていますが、これらは過去に夜間訓練をした際に必要性を認識したものです。

地域の危険箇所等を確認するまち歩き

ブロック塀や道が狭い箇所のような地域の危険箇所などを実際に歩いて確認しています。まち歩き後には、区独自の防災マップを作成しました。



まち歩きワークショップ

最後に

防災の原点はコミュニケーションだと考えています。松原地区高台の完成をきっかけに、平成 29 年を防災元年として、犠牲者ゼロを目指し引き続き活動を進めたいと思います。

○パネルディスカッション

活動事例の発表に続いて、交流会の後半では、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター ^{もとづか} 本塚 ^{ともき} 智貴 主任研究員（当時）をコーディネーターとしてお招きし、パネルディスカッションを実施しました。活動事例発表をいただいた自主防災組織3団体の代表者の方々にもパネリストとしてご参加いただき、地域の自主防災活動での経験を踏まえて、ご意見をお伺いしました。ここでは、パネルディスカッションで出された各自主防災組織の代表者の意見の一部を紹介します。



パネルディスカッションの様子

★南塩屋区自主防災会（御坊市）

浜ノ瀬区自主防災会（美浜町）への質問

「整備した観音山（御坊市）や松原地区高台（美浜町）を今後どのように利用・整備していく？」

・南塩屋区自主防災会（御坊市）

⇒「地域住民に観音山へ上ってもらえるように、植樹などを行っています。今後は、子ども会のバーベキューや宝探しでも良いので、山に普段から来てもらい、コミュニケーションを取りたいです。」



子どもたちと植樹を行っている様子

・浜ノ瀬区自主防災会（美浜町）

⇒「絶えず訓練を実施することを通じて、維持管理をするのが1番だと考えています。また、高台に行くきっかけは、訓練ではなく、花火大会を見るためでも良いと思っています。」

★小引区自主防災会（由良町）への質問

「空き家を活用して備蓄することとなったきっかけや課題は？」

・小引区自主防災会（由良町）

⇒「地域住民から要望があり、海拔の高い場所の空き家を借りることになりました。全住民ではなく、他に備蓄する場所がないという住民を中心に衣類等を置いています。ただし、空き家なので雨漏れやドアのきしみがあり、課題となっています。」

・本塚先生（コーディネーター）

⇒「ないものを要望するのもひとつの例ですが、地域にあるものを活用して良い事例ですね。」

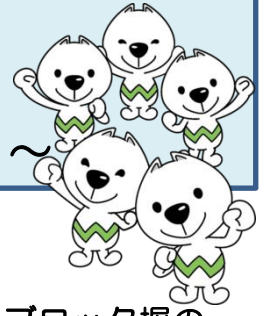
本塚先生（コーディネーター）の講評

事例発表者の方々には「活動はまだまだで、誇れるものでない。」と言っていました。が、「どこにでもありそう」で「どこにもない」唯一の活動になっていると思います。訓練などの活動は「する」ことが目的ではありません。「する」だけではなく、その先を見据えた「気付き」が大事で、「気付き」をもとにこれから変革していこうとする意識を事例発表から感じました。

防災は答えがある分野ではありません。一人一人の「気付き」をもとに、コミュニケーションを通じて自主防災組織内で共有をしながら、活動を進めていただければと思います。

平成 30 年度の自主防災組織情報交流会は2月に有田市で開催予定です！詳細が決まり次第、和歌山県防災企画課ホームページ等でお知らせします。

家庭や地域でできる防災・減災対策



～ブロック塀の安全対策や家具の固定を行いましょう！～

地震から命を守るための対策として、ブロック塀の安全対策や家具の固定は非常に大切です。

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震では、ブロック塀の倒壊や、本棚やタンス等の転倒により人的被害が発生しました。

地震から命を守るために、まずは身近なところからの備えを家庭や地域で始めましょう！

ブロック塀の安全対策

○地域に危険なブロック塀はありませんか？ 基準に適合していないブロック塀は、倒壊により人的被害や避難路の寸断が発生するおそれがあり、大変危険です！ 家庭や地域での安全対策をお願いします。



熊本地震で倒壊したブロック塀

○点検の際には、下記チェックリストを参考にしてください。一つでも該当する箇所があれば、基準に適合しない可能性があります。

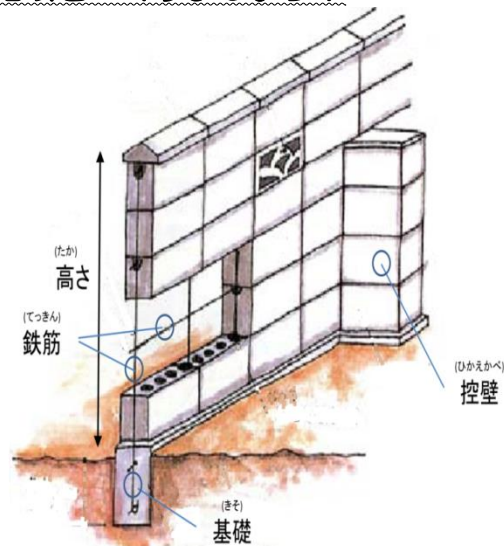
○基準に適合していない場合は、撤去や補強等を行ってください！

基準に適合しているか分からない場合は、県建築住宅課、各振興局建設部（和歌山市にお住まいの方は和歌山市建築指導課）、建築士関係団体等に相談してください。

○地域から危険なブロック塀をなくし、災害に強い地域をつくりましょう！

項目	点検内容	チェック 該当は○
1 高さ	塀が2.2メートルよりも高い (道路からの高さを確認してください)	
(ひかえかべ) 2 控壁	塀の高さが1.2mを超えているが、 控壁がない 若しくは 間隔が3.4メートルを超えている	
(きそ) 3 基礎	コンクリートの基礎がない 若しくは <u>確認できない</u> (ブロックは基礎ではありません)	
(てっせん) 4 鉄筋	タテ、ヨコ80cm以内の間隔で鉄筋が 入っていない 若しくは 入っているかわからない	
(ろうきゅうか) 5 老朽化	傾き、ひび割れ、欠けがある	

参考:コンクリートブロックは一つあたりタテ20cm、ヨコ40cmが一般的な大きさです



出典:一般社団法人全国建築コンクリートブロック工業会HP

お住まいの市町村によっては、ブロック塀の改修等に関する補助制度を設けている場合があります。詳しくはお住まいの市町村役場にお問い合わせください。

家具の固定

○家具の固定はお済みですか？ 熊本地震や阪神・淡路大震災などの大地震では、多くの方が住宅の倒壊に加え、倒れてきた家具の下敷きになり、尊い命を失ったり、けがを負いました。

○阪神・淡路大震災では、実に死亡原因の73%が自宅の倒壊や家具の転倒などによる「窒息・圧死」です。その多くは、「家具転倒防止対策」や「住宅の耐震化」を行ってれば、助かった命です。

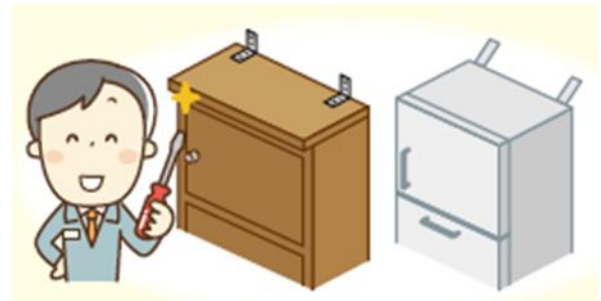
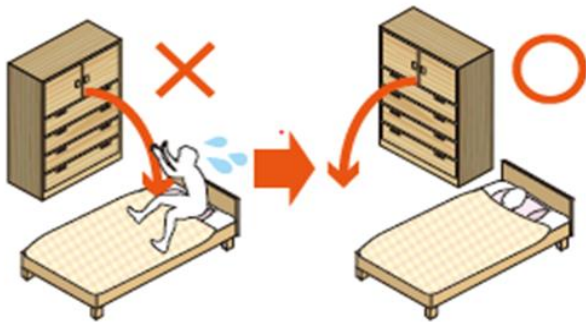
○地震から命を守るために、家具の転倒防止対策を進めましょう！



提供：神戸市

置き場所や置き方に注意して家具等を配置しましょう

適切な固定具で家具等の転倒を防止しましょう



○県では、家具固定施工事業者を紹介しています。

防災わかやま 検索

○お住まいの市町村によっては、ご自身で家具などの固定が困難な要配慮者世帯向けに、固定を代行したり、固定に要する費用を助成する制度を設けている場合があります。詳しくはお住まいの市町村役場にお問い合わせください。

◆ 防災わかやまメール配信サービス

県内の気象情報や地震・津波の警報・注意報など、さまざまな情報をパソコン、携帯電話などに電子メールでお知らせします。

ぜひご登録ください。



防災わかやまメール配信
サービス登録用QRコード

regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp

上記アドレスに空メールを送信してください。



「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています

「きのくに自主防災」では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。自主防災組織の訓練、普段の活動の取組や、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例をご紹介いただける場合は、ご連絡をお願いします。

※紙面の都合によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合がございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】 和歌山県総務部危機管理局防災企画課 TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652